アースラインマーカー の点検について

アースラインマーカーの表示

アース経路に挿入したアースラインマーカーへ静電気による電流が通過するとディスプレイ部に表示されます。

電流がプラスの場合は ⊕ 表示、マイナスの極性の場合は ⊖ の表示がそれぞれ表れます。

この表示は、静電気の強さ（電圧）や電流の通過回数により、マーク表示の濃度が変化します。

右の表示例はマイナスの電流がアース線に流れた時のものです。

左側はマイナス1000V程度の電流が1回通過した時の表示で、
右側はマイナス1000Vが7回程度、あるいは2000V以上が
2回以上流れた時の表示です。

まれに、⊕、⊖の表示が同時に淡く表れる場合がありますが、
これはリセットが不充分な場合に起こります。

また、上記のとおり同時に表れる表示が濃い場合は、
アース線を接続した静電気対策アイテム（導電性カラーマットなど）に
商用交流電流等が流れ込んでいる（漏電）恐れがあります。

⊖1000V 程度の電流が 1 回通過

⊖1000V 程度の電流が 7 回通過
or
⊖2000V 程度の電流が 2 回通過

点検・記録

管理規格等での取り決めはありませんが、点検頻度を増やすことで(1日1回など）、静電気に起因した事故原因を追跡しやすくなります。
アースラインマーカーを設置し、「点検・記録表」に管理番号、設置場所を明記します。
設置場所は「配置図」を作成しておくと、現場での点検がしやすくなります。

アースラインマーカーの表示を確認します
確認した表示に合わせて点検・記録表の⊕、⊖マークにチェックをつけます。
表示が無い場合も、点検の確認のため✔をいれてください。

【例】

記入例	
✔ ⊕ ⊕	○ ✔ ⊖
表示なし	薄い ⊖

その後、リセットキーで表示をリセットし、「リセット確認」欄の「済」に○印を記入しておきます。
※淡い表示の場合は、変化を見るためにリセットせず観察する場合もあります。

静電気による事故が発生した時は

静電気放電による事故と判断された場合、その生産品が通過した工程に仕掛けてあるアースラインマーカーの「点検・記録表」を確認してください。
静電気放電の発生をたどる道標として、発生場所の究明にお役立ていただけます。

アースラインマーカー 点検・記録用紙

別紙の【アースラインマーカーの点検について】をご確認の上、ご記入ください。

管理番号		点検月	年　月	管理者	
設置場所					

日付	点検	表示		リセット確認	担当者	特記事項
記入例	(有)・無	✔ ⊕ ⊕	○ ✔ ⊖	未・(済)	宝山太郎	
1	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
2	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
3	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
4	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
5	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
6	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
7	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
8	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
9	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
10	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
11	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
12	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
13	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
14	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
15	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
16	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
17	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
18	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
19	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
20	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
21	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
22	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
23	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
24	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
25	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
26	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
27	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
28	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
29	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
30	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		
31	有・無	○ ⊕ ⊕	○ ⊖ ⊖	未・済		